



2021年6月10日

各 位

会社名 東京インキ株式会社
代表者名 代表取締役社長 堀川 聡
(コード番号 4635 東証第2部)
問合せ先 管理部門理財部長 中村 真次
(TEL. 03-5902-7652)

(訂正) 「2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2020年11月6日に開示いたしました「2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正の内容と理由

訂正の内容と理由につきましては、別途、本日(2021年6月10日)付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以上

(訂正後)



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月6日

上場会社名 東京インキ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4635 URL <https://www.tokyoink.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀川 聡
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部門理財部長 (氏名) 中村 真次 TEL 03-5902-7652
 四半期報告書提出予定日 2020年11月9日 配当支払開始予定日 2020年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	17,776	△15.8	△179	—	△14	—	△93	—
2020年3月期第2四半期	21,119	△3.9	173	△62.2	304	△49.6	196	△50.3

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 43百万円 (△69.9%) 2020年3月期第2四半期 143百万円 (32.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△35.49	—
2020年3月期第2四半期	72.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	42,786	23,829	55.3	9,022.05
2020年3月期	43,259	23,901	54.9	9,053.66

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 23,665百万円 2020年3月期 23,751百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2021年3月期	—	40.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,500	△9.6	200	△66.3	1,020	26.2	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

親会社株主に帰属する当期純利益は、2020年7月22日に公表した「営業外収益の計上に関するお知らせ」に記載の通り、米国連結子会社の出資分配額による米国での税金費用及び税効果会計等の影響額を引続き確認中であるため、未定とさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	2,725,758株	2020年3月期	2,725,758株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	102,681株	2020年3月期	102,382株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	2,623,269株	2020年3月期2Q	2,701,973株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動の再開が図られておりますが、その動きは非常に鈍く、引き続き先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、既存の事業領域における競争力強化と顧客満足の向上および周辺事業領域への拡大に引き続き努めてまいりましたが、非常に厳しい状況で推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が177億7千6百万円で前年同四半期比33億4千3百万円の減収（15.8%減）となり、営業損失は1億7千9百万円（前年同四半期は1億7千3百万円の営業利益）、経常損失は1千4百万円（前年同四半期は3億4百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は9千3百万円（前年同四半期は1億9千6百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

次にセグメント別に概況をご報告いたします。

(インキ事業)

オフセットインキおよび印刷用材料は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中で、折込チラシ、旅行関連、イベント等のあらゆる印刷物の需要回復が遅れ、数量および売上高は前年同四半期に比べ大きく減少いたしました。

グラビアインキは、新型コロナウイルス感染症の影響により、食事のテイクアウトを含めた在宅での食生活指向が高まり、軟包装用環境対応製品等の戦略製品は健闘いたしましたが、紙用グラビアインキが土産用、贈答用分野の落ち込みが大きく、数量および売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

インクジェットインキは、受託インキが主要市場である北米やEU諸国で新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少し、産業用機能性インキにおいても、化粧品用、建材用需要の減少により、数量および売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

この結果、インキ事業の売上高は、51億2千万円で前年同四半期比14億3千3百万円の減収（21.9%減）、セグメント損失は7千5百万円（前年同四半期は8千2百万円のセグメント利益）と大変厳しい結果となりました。

(化成品事業)

マスターバッチは、新型コロナウイルス感染症の影響により一部の食品用途や衛生材関係で好調な製品はありましたが、自動車生産台数の減少により自動車用途が大きく落ち込み、外出自粛や海外からの往來が途絶えていることが影響し、衣料品、化粧品・日用品向けなどの一般包装資材関係も減少いたしました。また、梅雨の長期化により農業資材関係も不調となりました。

樹脂コンパウンドは、電子機器関係が好調であったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による自動車生産台数の減少が大きく影響し、数量および売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

この結果、化成品事業の売上高は、84億7千9百万円で前年同四半期比19億9千6百万円の減収（19.1%減）、セグメント利益は3億6千6百万円で前年同四半期比4億4千7百万円の減益（55.0%減）となりました。

(加工品事業)

ネトロン工材は、水処理用資材の輸出需要増加等により、売上高は前年同四半期に比べ増加いたしました。

ネトロン包材は、売上高はほぼ前年同四半期並みに推移いたしました。

一軸延伸フィルムは、新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド需要の低迷および消費者の外出自粛により贈答品包装用途が減少したため、売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

土木資材は、独自工法の確立に加え、災害復旧需要に対応したジオセルおよび周辺部材が採用され好調に推移し、売上高は前年同四半期に比べ大幅に増加いたしました。

農業用資材は、市況低迷により、売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

この結果、加工品事業の売上高は、41億5千6百万円で前年同四半期比2億1千6百万円の増収（5.5%増）、セグメント利益は4億8千6百万円で前年同四半期比2億9千4百万円の増益（154.0%増）となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業は、賃貸物件の売却により売上高は2千万円で前年同四半期比1億2千9百万円の減収（86.5%減）、セグメント利益は2百万円で前年同四半期比7千2百万円の減益（97.0%減）となりました。

なお、当社グループは、2016年度から2020年度の5カ年におきまして、中期経営計画「TOKYOink 2020」に取り組んでまいりました。最終年度である2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により経済活動が停滞し、売上、利益とも大幅に減少しており、中期経営計画の目標である連結経常利益15億円の達成は極めて厳しい状況であります。

現時点において、新型コロナウイルス感染症の経営環境への影響が見通せない状況が継続していること、ウィズコロナ、アフターコロナ下での外部環境変化も未だ不透明な状況下にあることから、現中期経営計画を1年延長すること、また次期中期経営計画の始動年度を2022年度とすることを当第2四半期連結累計期間に決定いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は427億8千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億7千3百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の増加12億8千6百万円、受取手形及び売掛金の減少19億4千6百万円、たな卸資産の減少1億7千3百万円、有形固定資産の増加3億4千4百万円及び投資有価証券の時価上昇等に伴う増加5千1百万円等によるものです。

(負債)

負債合計は189億5千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億1百万円減少いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少18億2千万円、短期借入金の増加21億8千万円、未払法人税等の減少2億1千8百万円、未払消費税等の減少2億8千5百万円及び長期借入金の減少3億6千9百万円等によるものです。

(純資産)

純資産の部は238億2千9百万円となり前連結会計年度末に比べ7千1百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金の減少2億7百万円及びその他の包括利益累計額の増加1億2千2百万円等によるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は28億6千3百万円で、前連結会計年度末に比べ12億8千7百万円の増加(81.6%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億4千3百万円の収入となりました(前年同四半期は、2億5千1百万円の収入)。主な要因は、税金等調整前四半期純損失1億1千5百万円、減価償却費6億4千3百万円が計上され、売上債権の減少19億5千8百万円、仕入債務の減少18億1千8百万円、たな卸資産の減少1億6千3百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、6億1千8百万円の支出となりました(前年同四半期は、9億6千1百万円の支出)。主な要因は、有形固定資産の取得による支出5億3千9百万円、無形固定資産の取得による支出7千1百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、15億6千9百万円の収入となりました(前年同四半期は、8億6百万円の収入)。主な要因は、短期借入金の純増額21億8千万円、長期借入れによる収入2億7千万円、長期借入金の返済による支出7億1千3百万円、配当金の支払額1億4百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想に関しましては、前回発表数値(2020年10月30日発表)から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,577	2,864
受取手形及び売掛金	14,848	12,901
商品及び製品	4,248	4,189
仕掛品	1,743	1,592
原材料及び貯蔵品	2,208	2,245
その他	305	286
貸倒引当金	△28	△25
流動資産合計	24,903	24,055
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,863	5,951
機械装置及び運搬具(純額)	2,459	2,498
工具、器具及び備品(純額)	421	405
土地	3,081	3,111
リース資産(純額)	244	224
建設仮勘定	971	195
有形固定資産合計	12,042	12,386
無形固定資産		
その他	664	659
無形固定資産合計	664	659
投資その他の資産		
投資有価証券	4,221	4,272
繰延税金資産	61	48
その他	1,423	1,419
貸倒引当金	△57	△55
投資その他の資産合計	5,649	5,684
固定資産合計	18,355	18,731
資産合計	43,259	42,786

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,667	6,847
短期借入金	2,390	4,570
1年内返済予定の長期借入金	1,420	1,345
リース債務	110	100
未払法人税等	280	62
賞与引当金	430	421
未払消費税等	297	12
未払費用	807	778
その他	373	714
流動負債合計	14,777	14,852
固定負債		
長期借入金	3,141	2,772
リース債務	158	147
繰延税金負債	112	124
役員退職慰労引当金	228	228
退職給付に係る負債	771	698
その他	169	132
固定負債合計	4,580	4,104
負債合計	19,358	18,957
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,246	3,246
資本剰余金	2,526	2,526
利益剰余金	18,294	18,086
自己株式	△260	△261
株主資本合計	23,806	23,598
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	363	445
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	44	△15
退職給付に係る調整累計額	△463	△362
その他の包括利益累計額合計	△54	67
非支配株主持分	149	163
純資産合計	23,901	23,829
負債純資産合計	43,259	42,786

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	21,119	17,776
売上原価	17,839	15,072
売上総利益	3,280	2,703
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	825	792
賞与	95	96
福利厚生費	195	196
減価償却費	124	137
賞与引当金繰入額	197	185
退職給付費用	65	102
通信交通費	137	84
荷造及び発送費	598	521
その他	866	768
販売費及び一般管理費合計	3,106	2,883
営業利益又は営業損失(△)	173	△179
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	85	84
出資分配益	54	81
その他	35	52
営業外収益合計	177	220
営業外費用		
支払利息	16	16
その他	30	38
営業外費用合計	47	55
経常利益又は経常損失(△)	304	△14
特別利益		
投資有価証券売却益	6	—
特別利益合計	6	—
特別損失		
固定資産除売却損	20	61
投資有価証券評価損	—	39
特別損失合計	20	100
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	290	△115
法人税、住民税及び事業税	120	16
法人税等調整額	△25	△53
法人税等合計	95	△37
四半期純利益又は四半期純損失(△)	194	△78
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	14
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	196	△93

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	194	△78
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△67	82
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△24	△61
退職給付に係る調整額	40	100
その他の包括利益合計	△50	121
四半期包括利益	143	43
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	145	29
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	14

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	290	△115
減価償却費	664	643
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3	△3
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△27	60
賞与引当金の増減額(△は減少)	0	△10
受取利息及び受取配当金	△86	△86
支払利息	16	16
有形固定資産処分損益(△は益)	20	61
投資有価証券売却損益(△は益)	△6	—
投資有価証券評価損益(△は益)	—	39
売上債権の増減額(△は増加)	2,401	1,958
たな卸資産の増減額(△は増加)	△380	163
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,343	△1,818
その他	△241	△398
小計	303	509
利息及び配当金の受取額	89	86
利息の支払額	△17	△20
法人税等の支払額	△123	△231
営業活動によるキャッシュ・フロー	251	343
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	0	—
有形固定資産の取得による支出	△917	△539
無形固定資産の取得による支出	△56	△71
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	31	—
貸付金の回収による収入	0	—
その他	△19	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△961	△618
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	820	2,180
長期借入れによる収入	900	270
長期借入金の返済による支出	△723	△713
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△80	△61
配当金の支払額	△107	△104
その他	△1	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	806	1,569
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	90	1,284
現金及び現金同等物の期首残高	1,869	1,576
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	111	22
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△20
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,071	2,863

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、ハヤシ化成工業株式会社は、合計の総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金等の連結財務諸表に及ぼす影響の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

また、東京ポリマー株式会社は、合計の総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金等の連結財務諸表に及ぼす影響の重要性が低下したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、インキ事業においては、主力のオフセットインキが折込チラシや旅行関連・イベント等印刷物の需要回復遅れ、またインクジェットインクが需要先の事業環境悪化を受け、化成品事業においては、自動車関連マスターバッチや樹脂コンパウンドが回復基調であるものの、衣料品、化粧品、日用品向け等の一般包装資材関係のマスターバッチについては回復が遅れ、当社グループの足許の業績に影響を及ぼしております。

今後、第3四半期以降、インキ事業ではオフセットインキやインクジェットインクの一部で需要回復、化成品事業では自動車関連マスターバッチや樹脂コンパウンドが更なる回復の兆しがあるものの、日用品向け等の回復が遅れており、当感染症の影響が依然として先行き不透明な状況であることから、一定期間は厳しい事業環境が継続することを考慮し、前連結会計年度の水準までには戻らない想定をしております。

繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損等につきましては、当想定の下、会計上の見積りの前提となる仮定を見直した結果、当連結会計年度の財政状態、経営成績に重大な影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					合計
	インキ事業	化成品事業	加工品事業	不動産賃貸事業	計	
売上高						
外部顧客への売上高	6,554	10,475	3,940	149	21,119	21,119
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	23	—	—	23	23
計	6,554	10,498	3,940	149	21,142	21,142
セグメント利益	82	814	191	74	1,163	1,163

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差額調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,163
全社費用(注)	△988
その他の調整額	△1
四半期連結損益計算書の営業利益	173

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					合計
	インキ事業	化成品事業	加工品事業	不動産賃貸事業	計	
売上高						
外部顧客への売上高	5,120	8,479	4,156	20	17,776	17,776
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	39	—	—	39	39
計	5,120	8,519	4,156	20	17,816	17,816
セグメント利益又は損失(△)	△75	366	486	2	778	778

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差額調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	778
全社費用(注)	△960
その他の調整額	1
四半期連結損益計算書の営業損失	△179

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。